

～幼保小の子どもの学びと育ちをつなぐ～

架け橋通信



令和5年度 第3号
(令和5年11月発行)
京都市教育委員会 学校指導課
幼保小の架け橋プログラム担当
TEL:075-222-3746

特集

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)とは?!

～朱雀第一小学校の合同研修会に参加して～

7月25日に朱雀第一小学校で幼保小の合同研修会が行われました。今回は、朱雀第一小学校の教職員以外に、光明幼稚園・朱一保育園・六満こども園の園長先生方や洛中小学校の先生方も参加されました。この合同研修会では、まず、幼保小のそれぞれの教育・保育のあり方について協議した後、「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)**」について、下記の「帽子とり」などの具体的な事例を通した子どもたちの見取りを学び合いました。



今回の「架け橋通信」は、こうした合同研修会の内容に加え、「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」を通した幼保小の連携・接続についてまとめました。

○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)とは…

- ・就学前施設において、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、幼児教育において育みたい資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿である。
- ・到達されるべき目標でなく、それぞれの項目が個別に取り出されて指導されるものでもない。
- ・就学前施設と小学校が、「10の姿」の共通理解のもとに、子どもの姿を中心に捉えて話し合い、架け橋期のカリキュラムの策定の手掛かりとすることができる。

10の姿の具体的構成

- ① 健康な心と体 ② 自立心 ③ 協同性 ④ 道徳性・規範意識の芽生え
- ⑤ 社会生活との関わり ⑥ 思考力の芽生え ⑦ 自然との関わり・生命尊重
- ⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ⑨ 言葉による伝え合い ⑩ 豊かな感性と表現

○10の姿の捉え方の例

帽子とり…小学校でよくされる騎馬戦の騎馬のない遊び。チームに分かれて帽子を取合い、勝敗を競う遊び。帽子とりのルールは、園によっても違う。また、同じ園でもどんどん進化していく。

- ・この活動では主に「**健康な心と体の育ち**」をねらって取り入れるが、この遊びを見ていると経験上それだけではない下記のような姿が現れると考えられる。

- ① **健康な心と体**…体を動かすことで様々な動きを獲得し、体を動かす心地よさを味わう。
- ② **自立心**…自分たちの力で遊びを進める充実感を味わう。
- ③ **協同性**…友達とチームの勝利のために協力する心地よさやチームの一体感を味わう。
- ④ **道徳性・規範意識の芽生え**…ルールを守って遊ぶ楽しさを味わう。帽子を取られそうになっても心を調整してルールを守ろうとし、その大切さが分かる。
- ⑤ **思考力の芽生え**…どうしたら帽子を取られずに逃げ、相手の帽子を取れるか、自分やチームの仲間と考えたり、試したり、失敗しながら考えを深める。
- ⑥ **数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚**…チームの人数を決めたり、取った帽子の数を数えたり、数の違いを確かめたりしながら、数量への感覚を豊かにする。

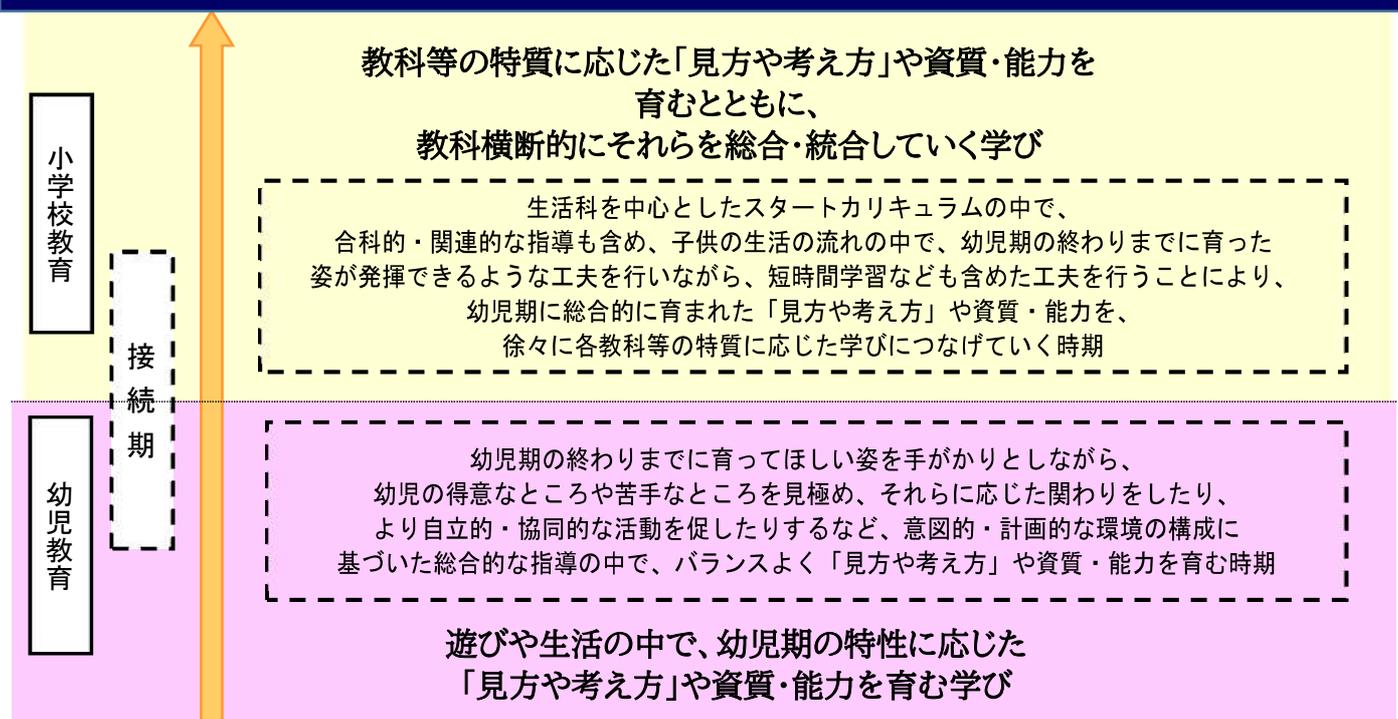


このように一つの活動で、「今、どのような姿が育まれているのか」という見取りが大切になります。

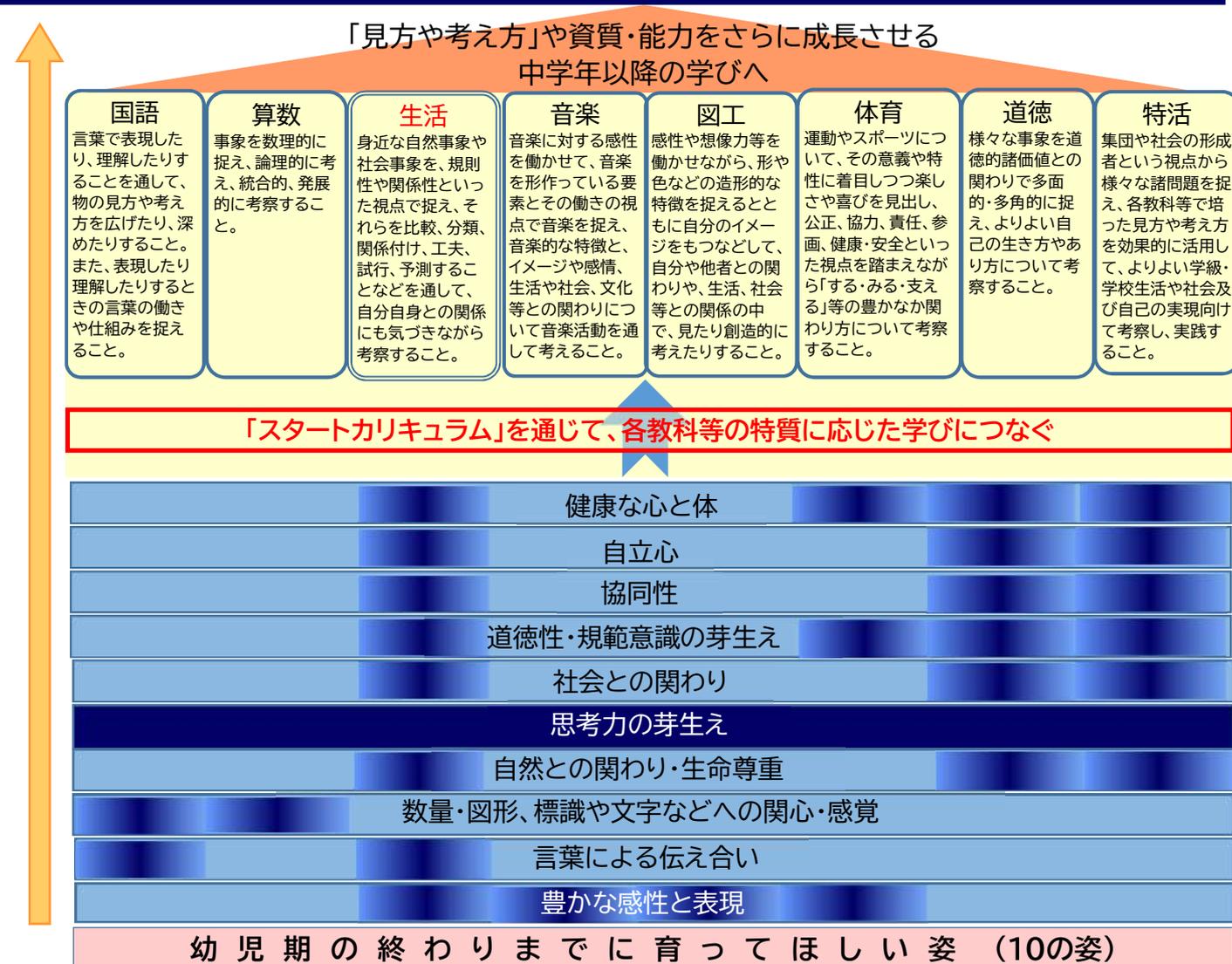
○10の姿についての理解を深める連携・接続

- ・具体事例を通し「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」として、どのような姿が見られるのか、実際の保育の場面(動画や写真の利用も可)を取り上げて、幼保小の保育者と教員が話し合うことが大切である。
- ・事例を通した協議では、次のような視点で話し合うことが有効である。
 - 視点① 幼児にどのような力が育とうとしているかについて、10の姿を手掛かりに考える。
 - 視点② 育ちつつある姿が、小学校の教育のどのような場面につながるかを考える。
 - 視点③ 園の先生や小学校の先生が大切にしている関わりについて共有する。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と小学校教育との関係



10の姿とスタートカリキュラムのイメージ (案)



この図の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の濃淡は、小学校教育の各教科領域との関連がわかるように示したものの、幼児教育において小学校教育を前倒しで行うことを意図したものではない。基本的に全教科に関わっているが、濃い部分は特に意識的につながりを考えることが求められている。